

2016 vol.45

UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

PRESS

特集 復興からまちづくりへ

写真で見る5年の歩み

コロッケさんインタビュー



Special Interview

懐かしい団地を舞台に
僕が一番見たい映画をつくった

映画監督

是枝裕和さん



01 まちの記憶 ⑧ 「変化のうしろにある光景」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす ⑧

是枝裕和さん

映画監督
懐かしい団地を舞台に
僕が一番見たい映画をつくった



07

特集
東日本大震災から5年
復興からまちづくりへ

- 09 岩手県 大船渡市 大槌町 山田町
復興の先の未来に向けて着実に進むまちづくり
13 宮城県 南三陸町 気仙沼市
形を見せ始めた新しいまち 子どもたちの未来に思いを馳せて
17 福島県 いわき市
宅地引き渡しにふくらむ夢と期待

19 あの日から5年

- 写真でみる復興の足跡
25 復興Interview
コロッケさん (ものまねタレント)
決して忘れず、継続すること。
僕は東北で多くのことを学びました



29 UR都市機構が取り組む復興支援MAP2016

31 届け! 笑顔 ④ AKB48 「誰かのために」プロジェクト 東北復興支援
盛岡市(岩手県)／南相馬市(福島県)／石巻市(宮城県)



- 33 ベランダ菜園の楽しみ ⑥ たなかやすこ
ゴマ栽培は、意外にもベランダが向いている
34 人気プロガーの団地DIY術 ⑧ Makees
自由にカスタマイズできる便利な棚
世界の扉を開く本 ⑩ 三田修平 テーマ▶新生活応援ブック

35 URのまち あのまち・このまち・歩いてみよう! その⑥
うめきた周辺(大阪市)

37 プレゼント付きクロスワードパズル
38 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.45
2016年4月30日発行
発行 独立行政法人都市再生機構
〒231-8315
神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
Tel 045-650-0882 Fax 045-650-0889

制作 日本経済社
編集協力 新潮社、編集室りっか
デザイン 太田デザイン事務所
印刷 凸版印刷
※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。
※本文中の肩書きは取材時のものです。

表紙の世界

商店街の1日の匂い。朝の地面から立ち上る匂いにお豆腐やパンの匂いが混じり、開店する頃には花屋の緑の匂い、お昼には飲食店のダシや炒め物の匂いがして、夕方にはやきとりやうなぎの匂いがグッと来る。閉店後はその残り香に、木々や土の匂いが混じる。そのような人の営みを感じられることが大切だと感じています。

イラストレーション・小林マキ



集落ができていく。それでもかつてあった町の風景は、忘れられないようにいろいろなかたちで伝えられていくのだと思う。
電車とバスを乗り継いでここまでこられることがわかって、びっくりするほどうれしかった理由がようやくわかる。運転免許を持たない私が、ここまですりかかっていたこの町と、私はそんなふうにならなかつたのだと気づく。いつでもひとりだけでやってこられるように。私なりに、忘れないように。



かくた・みつよ
作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文賞を受賞しデビュー。「対岸の彼女」(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は『拳の先』(文藝春秋)。

時間はかかるだろう

けれど、三陸の景色はどんどん変わっていく、あたらしい町と

だ。失ったものの重さを垣間見た気がして、胸がふさがれる思いがあった。つらいこと、かなしいことは忘れたほうが楽になるけれど、かつてあった光景を忘れることはもう一度失うことなのかもしれない。忘れないために、失わないために、このツアーははじめられたように思った。
「マンシヨンの隣に大型ショッピングセンターと家電店があった、ここいらへんは便利な場所だった」とガイドさんが説明すると、それまでずっと黙っていたタクシートの運転手さんが、「そうだったな、あったな、でっかいのが。忘れてしまふな」と独り言のようにつぶやいた。私はそのとき、この町に住む人たちの失ったものの重さを垣間見た気がして、胸がふさがれる思いがあった。つらいこと、かなしいことは忘れたほうが楽になるけれど、かつてあった光景を忘れることはもう一度失うことなのかもしれない。忘れないために、失わないために、このツアーははじめられたように思った。



今年二月、またしても三陸を訪ねる機会を得た。仙台から新幹線、大船渡線、乗り換え輸送のバスBRTで陸前高田までいけるのが、自分でも意外なくらいうれしかった。今までタクシーやレンタカーでいくしかなくて、「すごく遠い」という印象が強かったのだ。

陸前高田

の観光物産協会は、語り部ガイドによる被災地ツアーを行っている。ガイドさんに案内してもらったのは、三年前を思い出せないくらい整備されている。四階まで津波の被害に遭い、その上階二階ぶんは被害に遭わなかったマンシヨンが、遺構として残されている。そこに案内してもらったとき、鮮やかに記憶がよみがえった。五年前の四月、このマンシヨンの五階と六階には布団が干されていた。四階より下は津波にさらわれているのに、その上では生活が営まれていた。その光景はたくましくもあり、痛々しくもあった。

変化のうしろにある光景

まちの記憶 8 角田光代

二〇一一年の四月

二〇一三年の十二月に三陸地方を訪れた。大地震後の四月はただただ言葉が失い、思考も止まり、茫然とろろつきまわった。二年後の冬は、崩壊した家や積み上げられた生活の欠片が跡形もなくなり、地面を雪が覆っていた。まったく人の姿がなく、ベルトコンベアーが複雑に入り組んでいた。

Special Interview

Hirokazu Koreeda



懐かしい 団地を舞台に

世界で注目される映画監督・是枝裕和さんの最新作『海よりもまだ深く』は、自身が20年近く住んでいた団地が舞台。長い時間をかけて変化していく団地とそこに集う人々の人生が交差して、「僕自身が一番見たかった」という映画が完成した。

僕が一番見たい映画をつくった

是枝裕和

さん 映画監督

新作映画の舞台は 自らが育った団地

5月に公開になる『海よりもまだ深く』は、東京都清瀬市の清瀬旭が丘団地を主な舞台にしています。ここは、僕が9歳から28歳まで20年近く住んでいた団地で、実際に暮らしていたのと同じ間取りの3DKの部屋で撮影しました。

旭が丘団地には、まだ当時の友達のお父さんやお母さんが住んでいて、撮影していると「これちゃん」って声をかけられたりもしました(笑)。映画のなかに樹木希林さんのお友達で「ながおかさん」という人が出てくるんですが、モデルにした本

人に撮影中に会っちゃって、その場で「すみません、お名前を借りてるんですが」と了解をとったこともありましたね。

なぜ団地で撮りたかったのか？ いま、団地はいろいろな形で変化してきていると思います。たとえばリノベーションやリニューアルされた団地があり、単身者が多く住むよう

になっていく団地もある。僕の母は10年前まで旭が丘団地に住んでいたんですが、年に1、2度訪れただけでも、階段に手すりが出ていたり、公



園にあった滑り台がなくなっていたり。さまざまな意味で、僕の記憶と変わってきてつつある。いま撮らなければ、僕が子ども

の頃に見た原風景がなくなってしまうという思いがありました。それにあそこは築50年がたち、多摩の雑木林を切り拓いて造った団地が、その頃に植えた木々の緑で再び包まれ始めています。そこにもある種の魅力を感じて、風景としての団地を撮りたかったというのも大きな理由です。

「なりたかったわけじゃない」 人生を重ねあわせて

映画のストーリーは、団地に一人暮らしする母親(樹木希林)のもとを、人生に半ば失敗しかけた息子(阿部寛)が訪れ、そこに別れた妻(真木よう子)と子ども(吉澤太陽)も集まり、台風の夜に一晚過ごすという話です。脚本ノートの1ページ目に書いたのは、「みんながなりたかった大人になれるわけじゃない」という1行でした。

ある晩、自宅の仏壇にお線香をあげようとしたら、香炉に線香の燃えカスが山のように入っていて、線香が立たなかったことがあったんです。それで、中身を新聞紙にあげ、割り箸で燃えカスを選び分けていたら、ふ

と火葬場でお骨を拾っている記憶が浮かんだんですね。「こういう父親と母親の思い返し方もあるな」と、そのシーンを脚本ノートに書きました。

そこから、香炉を掃除する夜の話にしよう、それは台風の夜で、母親の住む団地で……とストーリーの核ができた

んです。次に、そこでかける曲を考えていたら、いつか自分の映画で使いたいと思っていったテレサ・テンの「別れの予感」が浮かんできた。映画の題名『海よりもまだ深く』は、そのなかの歌詞からとったものです。

阿部さん演じる息子をはじめ、母親や別れた元妻も「こんなはずじゃなかった」という思いを抱きながら、夢見た未来とは違ってしまった今を懸命に生きています。そして、映画の主な舞台になる団地も、建設された当時とは、いろんな



これえだ・ひろかず
1962年生まれ、東京都出身。早稲田大学卒業後、テレビマンユニオンに参加、その後独立して「分福」を立ち上げる。04年の作品「誰も知らない」では、主演の柳楽優弥がカンヌ国際映画祭で、史上最年少の最優秀男優賞を受賞。その他の作品に「花よりもなほ」(06年)、「歩いても歩いても」(08年)、「空気人形」(09年)、「奇跡」(11年)、「そして父になる」(13年、カンヌ国際映画祭審査員賞などを受賞)、「海街diary」(15年、第39回日本アカデミー賞最優秀作品賞、最優秀監督賞等)などがある。

意味で違う着地にたどりつきつある。そうした登場人物と団地の人生を重ねられたら面白いと思っただけです。

団地という環境で、自分の置かれた立場なりに豊かに暮らしたい、でも老いていったときに

どうなるんだろう。そして母親は……というちょっとした不安や郷愁も含めて描けたらいいな、という思いで撮影に入りました。

団地暮らしのエピソードを ふんだんに盛り込んで

この映画では、団地の生活がちゃんと見えないと、そこにある面白さや孤独感も伝わらないと思い、団地生活者の目線で撮ることにすこくこだわりました。

実際に暮らしていた旭が丘団地の1室で、いかにして豊かに暮らそうとしていたかを思い出しつつ、目の前にいる阿部寛さんや樹木希林さん、真木よう子さんをどう動かしたらこの空間が魅力的に見えるかを考えながら撮りました。

狭くて撮影しにくいのでは、と思うかもしれませんが、実はそうでもないんです。ドアがな

いので、人物の後ろに奥の部屋の仏壇がぼやけながら写り込むことが重要だったり、その狭さが逆に絵にしやすかったりするんですね。

映画のなかに出てくるエピソードも、実際にあったことがほとんどです。たとえば外出するときに鍵をどこに置くか。うちの母親は使わなくなった牛乳瓶受けに入れていたので、それを映画で使いました。それか、ドアの新聞受けの中にひもで吊るしておくか、新聞受けの天井にガムテープで貼っておくか(笑)。いま考えると危ないんですけど、昔は大丈夫だったんですね。

お風呂にもこだわりました。たまに母の所に帰ると、「寝ただけだから、もういい」って言うのに、母親が風呂場に行ってガチャコンガチャコンって点火を始めるんですよ。それをどうしてもやりたくて、リニューアルされる前の部屋の古い浴槽を探しだして使いました。

台風之夜、公園の滑り台の下でお菓子を食べたのも事実ですし、阿部さんのセリフで「子どもどきに登った」と言う給水



映画の中で、台風之夜を過ごすタコの滑り台。

旭が丘団地に越す前の家は学校から遠かったから、下校した後遊ぶ友達がいなかったんです。でも、団地に越したら周りじゅう子どもだし、芝生で野球はできるし、自転車も乗り放題。遊ぶことには事欠かなくて、ほんとうに楽しかったですね。

団地暮らしは アイデンティティーの一部

映画の内容自体はフィクションですが、そこには僕が20年団地に暮らし、離れてからも持っている郷愁や後悔など、さまざまな感情が詰まっています。団地ではいちばん多感な時期を過ごしていますし、その風景や記憶が原風景として完全にすりこまれていて、僕のアイデンティティーの一部になっている。そういう意味では、僕の非常にパーソナルな部分が反映された映画です。

この映画は僕がいちばん見たいし、愛している。僕にしかなれない映画であることは、間違いないと思っています。

団地は、はたから見るととても人工的に見えるかもしれませ



『海よりもまだ深く』

原案・監督・脚本・編集：是枝裕和
出演：阿部寛 真木よう子 小林聡美 リリー・フランキー 池松壮亮
吉澤太陽 / 橋爪功 樹木希林

©2016 フジテレビジョン バンダイビジュアル AOI Pro. ギャガ
配給：ギャガ
5月21日(土)丸の内ピカデリー、新宿ピカデリー他 全国ロードショー

塔も、実際にあったものです。台風が来る夜、樹木希林さんが窓からなんだか楽しげに外を見ているのも、母親の記憶です。その前に住んでいたのが屋根が飛びそうな家だったので、引越した夜に「もう台風が来ても安心だね」って。そこまでなら普通の人なんだけど、「台風来ないかな、台風大好き」って(笑)。よほど、うれしかったんでしょうね。

思い返すと、当時の団地は、子どもにとっては最高でしたね。

Information

東日本大震災から5年、
UR都市機構が取り組んできた復興事業は新たなステージへ。
整備した宅地や災害公営住宅が引き渡され、未来のまちの姿が現れ始めているのだ。
地域に合ったまちづくりに向けてUR都市機構は
ハード面だけでなくソフト面の支援にも力を入れている。
東北各地の今、そして今後の展望をお届けする。

特集

復興から まちづくりへ

東日本
大震災から
5年

岩手県

盛岡市・山田町
大槌町

大船渡市
宮城県
気仙沼市
南三陸町

仙台市

福島県

福島市

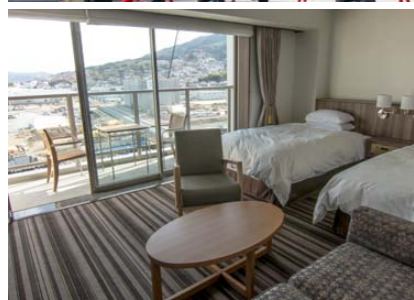
いわき市

福田正紀=ドローン撮影

2016年3月13日に「第1期まちびらき」のセレモニーが行われた岩手県大船渡市。中心市街地では新たなまちづくりに向けた工事が急ピッチで進む。※肩書きは取材当時のものです。



「まちを復活させたい」との思いで駅前に移転、3月12日に新装オープンした大船渡プラザホテルは大船渡の復興のシンボル。結婚式場や宴会場も備えている。



快適なホテルの客室。ここからも整備中のまちの様子が望める。



鉄道に代わって運行しているBRT(バス高速輸送システム)の大船渡地区内の専用道も完成した。



市内に住む金野さん一家。「ししおどり」は大船渡の伝統芸能で、父親の圭介さんも大船渡保育園に通っていたときに踊った。「大船渡の風景がこれからどんなふうになっていくのか、楽しみです」



岩手県
大船渡市
大槌町
山田町

復興の先の未来に向けて 着実に進むまちづくり

新たなまちづくりが進む岩手県沿岸部の大船渡市、大槌町、山田町。規模やかたちはそれぞれだが、一歩ずつ着実に歩み続ける3つのまちを訪ねた。

上/大船渡保育園の子どもたちによる「ししおどり」に観客の目は釘づけ。下左/大船渡東高等学校太鼓部も迫力ある演奏でセレモニーを盛り上げた。下右/大船渡駅前の交通広場で開かれた「第1期まちびらき」。「この日を始まりに、これから来年にかけて一帯の風景がどんどん変わっていきます。ご期待ください」と戸田公明大船渡市長(右から4人目)があいさつ。



大船渡市 まちに賑わいを取り戻す 駅周辺地区がオープン

にぎやかな祭囃子に合わせ、手づくりの鹿頭をつけた33人の大船渡保育園の園児たちが、元気に跳ね踊る——快晴に恵まれた3月13日。大船渡駅周辺地区の「第1期まちびらき」は、地元の伝統芸能の「ししおどり」でなごやかに幕を開けた。

今回のまちびらきは、バスやタクシーが乗り入れる「交通広場」と市道茶屋前野々田線の開通、地区内のJR大船渡線BRT専用道の開通を祝して開かれたもの。大船渡市長をはじめ、東日本大震災の際に「トモダチ作戦」で救助活動をした米国関係者ら約600人の出席者が集い、会場は明るい笑顔に包まれた。

長男の颯輝くんのししおどりを見に来たという金野圭介さん、香さん夫妻は「駅前前で工事をしているのは知っていましたが、今日あらためて見て、こんなに進んでいたのかと驚きました。子どもたちにとって、このまちは故郷。今日をきっかけにさらに復興が進んで、

るなど、きめ細かく柔軟な対応を日々迫られるという。

UR都市機構大船渡復興支援事務所基盤工事課課長の鈴木徹也も、「復興を待つ皆さんのために、通常以上のスピードで工事を進めています。工事はまだまだ続きますが、今日の日を無事迎えられて、本当にほっとしています」と語る。駅周辺地区では、4月から6月にかけて大型ショッピングセンターが建ち、来年にかけて飲食店やモール、ファクトリーショップな



大船渡市災害復興局市街地整備課の金野尚一課長補佐。「まちづくりを進めるうえで、もっとも大切にしたいのは、復興という目標に向けて、1つの“チーム”として進むこと。URさんは非常に頼もしいメンバーです」



7月までに災害公営住宅の 引き渡し完了予定!

大船渡市でUR都市機構は227戸の災害公営住宅建設も担当している。7月にはすべての引き渡しを完了する予定だ。

そのうちのひとつ、「杉下団地」は、海が見える高台にゆったりと建つ木造住宅。現在仮設住宅で暮らす金野光子さんは、5月にこちらに入居予定。「部屋もトイレも広々しているし、収納も多くて住みやすそう。暮らしはまだまだ大変だけど、バルコニーで海を眺めてコーヒーでも飲んだら、気持ちも癒されそうです」



UR都市機構は、大船渡市内で土地区画整理事業と津波復興拠点整備事業、災害公営住宅の整備を担当している。UR都市機構大船渡復興支援事務所の緑川一郎(写真右)と鈴木徹也(左)。「駅前周辺の工事は、3月13日お披露目という期日が決まっていたこともあり、毎日が綱渡りの状態。早く再建しなければ、という使命感が支えになりました」

安心して暮らせるまちになってほしい」と顔をほころばせた。

発展する持続可能なまちに

古くから港を中心に水産業で栄え、海外からの船員などでにぎわった港町、大船渡。東日本大震災による壊滅的な被害から5年、待ちに待った新しいまちの姿が現れ始めた。

「大船渡駅前には、津波復興拠点として、行政施設や商業施設が集約される計画です。それに合わせ、大船渡線の線路をはさんで海側の商業地域は3メートルまで、山側の居住地域は5メートルまでかさ上げする工事を進めています。この地区には既存の建物も残っていたため、順繰りに、また迅速に工事を進める段取りを組むのが大変でした」



中心部を流れる須崎川の改修工事を担当する泉の清水雅弘主任。「浸水に備えて川幅拡張などの工事を行っています。桜並木を再生して親水公園もつくる予定。市民の皆さんの、憩いの場になってほしいですね」

どがオープン。同時に、山側の住宅の着工と、平成30年に向けて着々とまちができていく予定だ。「駅前の中心部を流れる須崎川には親水公園をはじめ、3つの公園もできます。家族連れの方々の憩いの場所になってくれれば」と岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター河川港湾課河川復旧チームの清水雅弘主任は話す。復興、そしてその先の未来へ。大船渡市のまちづくりは、新たな、そして確かな一歩を踏み出した。



上/「国道を通る人が山田町に立ち寄る“入口”の役割を果たしたい」と話す、新生やまだ商店街協同組合の昆尚人理事長。左/国道45号線沿いの新生やまだ商店街。岩手県沿岸北部で初出店となるセブンイレブンをはじめ、写真店や理美容店、飲食店などが入居、順次オープンしていく予定。

山田町
便利で活気あるまちに！
2つの商店街が担う役割

大槌町の北に位置する山田町は、カキとホタテの養殖を中心とした



左/町方地区の末広町町営住宅から望むこの地にコンパクトシティが整備される予定だ。左下/住宅内覧会の様子。カーテンの寸法を確かめる住民の方々。



末広町町営住宅は鉄筋コンクリート造の6階建て、全53戸。住民同士が気軽に話せるベンチや集会所、エントランスに設けた畳スペースなど、コミュニティづくりへの配慮もきめ細かい。まじらき方式の日には、餅まきも行われた。



大槌町
虎舞や神楽で盛り上がる
まじらき方式を開催

「わーっ、広い！」「海が見えるよ」「この台所、使いやすそうね」「真新しい香りのする部屋から、明るい歓声上がる。3月12日、岩手県大槌町町方地区末広町で行われた、災害公営住宅内覧会でのひとコマだ。最上階の6階に住む予定の上野秀雄さん、広子さん夫妻は「やっぱり海が見えると安心しますね。震災から5年、これからようやく新しい暮らしが始まる気がします」と笑顔を見せた。

この日開かれたのは、災害公営住宅と宅地の完成を祝うまじらき方式。記念植樹に郷土芸能の虎舞や神楽、餅まきも行われ、まちの中心部に久々のにぎわいが戻った。



関係者や町民など、120名以上が参加したまじらき方式。祭りが盛んな地域だけに、郷土芸能の虎舞や神楽には、自然と手を動かす参加者も。

漁業が盛んなまち。半数近くの家屋が被災した、このまちの新たな中心となるJR陸中山田駅前エリアで、商業施設の建設が進められている。

山田町と平成24年に協力協定を結び、まちづくりを支援しているUR都市機構は、復興市街地整備事業3地区、災害公営住宅6地区を担当。陸中山田駅前エリアは平均3メートルほどかさ上げし、商店や金融機関、交流施設などを集約。周囲に災害公営住宅などを配置した利便性の高いまちにする計画だ。

昨年11月に国道45号線沿いに「新生やまだ商店街」がオープン

**暮らしやすい
コンパクトなまちに再編**

町方地区は、全体を平均2・2メートルかさ上げし、市街地を震災前の約半分の30ヘクタールに縮小。平成29年度にかけて、コンパクトで暮らしやすいまちへと生まれ変わる計画だ。UR都市機構は町方地区での土地区画整理事業と町内8地区の災害公営住宅建設などを担当、新しいまちづくりの手助けをしている。



UR都市機構大槌復興支援事務所所長の矢島龍太。「町方地区は湧水が豊富なため、井戸を閉塞し、2、3カ月試験盛り土をしてから本格的な盛り土をしました。この地区ならではの作業でした」

しているため、駅前エリアが完成すれば2つの商店街が共存することになる。

「2つの商店街には高低差と距離がありますが、間に公園を配置して動線をつくり、人の流れをつくることを提案しました」

と語るのは、UR都市機構山田復興支援事務所市街地整備課主幹の中平真裕だ。まちの将来を考え、都市計画から補助金申請までソフ



平成24年の着任以来、さまざまなアイデアを出し、山田町のまちづくりを支援しているUR都市機構山田復興支援事務所の中平真裕。

ト面の支援にも力を入れてきた。駅前エリアの核となる地元スーパー「びはん」の駅前への移転も決定し、地元の人々の期待が高まっている。「びはん」は、同時に新生やまだ商店街にセブンイレブンを出店し、2つの商店街の盛り上げに貢献している。

9月には駅前スーパーと商店街がオープン、災害公営住宅も完成予定。新たなまちが誕生する。

**子どもたちが復興現場を撮影
「山田町まちづくりフォト☆」開催**

普段立ち入ることのできない復興現場の撮影を通して、自分たちのまちの復興状況を知り、思いを発信することで復興プロセスに参加しよう。そんな目的のもと、昨年11月7日、子ども支援専門の国際NGO「公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」の企画で、「山田町まちづくりフォト☆」が開催された。

当日は小学4年生から高校1年生まで9名の山田町の子どもが参加。UR都市機構も全面的に協力し、山田中央団地など数カ所の建設現場を案内した。普段目にするこくない光景に目を輝かせながらシャッターを切っていた子どもたちの作品は、1月からUR都市機構の「東日本大震災 復興フォト&スケッチ展2015」の会場に展示され、来場者の関心を集めた。



すでに地縄張りの終わった宅地に立つ三枚堂正文さん。「今日の式では、以前のお隣さんに会えたのもうれしかったですね。4月の着工が、待ち遠しいです」

する必要がありました。隣の山田町や三陸沿岸道路のトンネル工事が出た土を運び、なんとかクリアできました」と、工事の苦勞を語るのにはUR都市機構大槌復興支援事務所所長の矢島龍太だ。そして大槌町復興局都市整備課の青木利博課長は「大槌町では住民主体のまちづくりを進めています。URさんは大規模ニュータウンなどの経験も豊富で、とても頼もしい助っ人です」と信頼を寄せる。

宅地の引き渡しはすでに始まっている。三枚堂正文さんの宅地では、4月から着工するという。「家があった場所に、再び住めるようになって本当によい。今日は震災後初めて神楽や虎舞を見て、思わずうるっときましたね。早く、まちの形になって、前と同じように神輿や山車がまち中を練り歩くのを見たいです」

再びにぎやかな祭囃子が聞こえる日を、誰もが心待ちにしている。



大槌町復興局都市整備課の青木利博課長は、神戸からの応援で赴任。「住民の方々の意向に沿うまちになるように何十回もワークショップを開き、道路幅や公園の施設などを細かく調整しました」



まちづくりの気運を高めた、びはん株式会社の間瀬慶蔵専務取締役。今後は地元のオリジナル商品を増やして、まちに還元していきたいと語る。



山を宅地に造成した東団地(東工区)に徐々に住宅が建ち始め、まちが姿を現してきた。

昨年12月、高台に造成された住宅地に最初に入居した古澤孝夫さん、正子さん夫妻。「これから庭をつくるのが楽しみ」と春を待ちわびていた。



右/東団地地区には、まず病院とケアセンターが造られた。新しい町役場も移転する予定。左/セブン-イレブン志津川十日町店のオーナー渡辺隆さんと、店長で長男の健太郎さん。「お客さまあつての店。『ありがとう』といわれるのが一番うれしい」と隆さん。



の意欲が生まれた。それが2012年2月、仮設店舗が集まった「さんさん商店街」の開設にもつながったという。

震災から5年、造成した高台には昨年12月、真つ先に病院が完成し、住宅も建ち始めた。「まだまだこれから頑張らねば」と語る山内さんの表情は明るい。

高台の造成は今年度中 低地のかさ上げも

南三陸町とUR都市機構は2012年3月に協力協定を締結。「なりの場所の様々であっても、住まいは高台に」という町の方針を最優先に、UR都市機構がまわづくりをサポートしてきた。担当した災害公営住宅の建設と志津川地区内3カ所の高台の造成は今年度中、市街地があった低地60ヘクタールの区画整理とかさ上げも、2018年度中には完了の予定だ。「復興工事では、町の意向やニーズ、住民の意向をいかに汲み取ることが何より重要です」とUR都市機構南三陸復興支援事務所長の土田公生はいう。人間関係を築きつつ、各所と粘り強く調整を重ね、土田いわく「職員は

120%の力を出して仕事に臨んでいる」という奮闘の成果が、目に見える形で実を結び始めた。もちろんそのベースに、町長をはじめ復興への強い意志をもつ行政との連携や、まちの人たちの協力があつたことはいまでもない。

住宅と店舗と 造成地に続く建設

新しい暮らしが始まる志津川地区の造成地。入居第1号住宅となつたのは、古澤さん宅だ。夫妻は4年9カ月を仮設住宅で暮らした。その土地に愛着も新たな人間関係も生まれたが、故郷への思いには



福興市に足を運んだ南三陸町の佐藤仁町長(右)と、UR都市機構の土田公生。



寒さが緩んだ2月末に開かれた第54回南三陸福興市。今回のテーマは「牡蠣わかめまつり」。

宮城県
南三陸町
気仙沼市

形を見せ始めた新しいまち 子どもたちの未来に思いを馳せて

宮城県南三陸町では造成した高台に住宅が建ち始め、商業地には店舗もオープンした。災害公営住宅の建設が急ピッチで進む気仙沼市では、生活の質に気を配る取り組みも行われている。



福興市実行委員長の山内正文さんは、自身が営む鮮魚店を震災の約半年後に再開させた。

「みんなを何とか元気づけなければと、震災10日後には開催を決意していました」

そう語るのは実行委員長の山内正文さん。最初は支援者による出店中心だったが、次第に被災商店主も参加するようになり、再起へ

蒸し牡蠣を頬張るグループや自慢のワカメを売る人、「私たちが作りました!」と食品をアピールする高校生たち、ステーションからはアカペラの歌声……。好天に恵まれた2月28日、南三陸福興市が開かれた南三陸町役場前の広場には、

南三陸町 人々の思いのもとに進む 南三陸の再生

人々の笑顔とにぎわいがあふれていた。

福興市は毎月最終日曜に開催され、この日で54回を数える。全国のまちを結ぶ防災ネットワーク「ぼうさい朝市」の支援を受け、最初の福興市が開かれたのは2011年4月29・30日。まちの6割が壊滅した震災の、およそ50日後のことだった。

「みんなを何とか元気づけなければと、震災10日後には開催を決意していました」

そう語るのは実行委員長の山内正文さん。最初は支援者による出店中心だったが、次第に被災商店主も参加するようになり、再起へ



志津川湾の牡蠣、その旬のおいしさを味わうには、蒸し牡蠣が一番だ。近隣各地からお客さんが集まって、福興市は盛り上がった。



上／今年3月に完成した幸町の災害公営住宅につくられた集会所。

下／建設が進む幸町の災害公営住宅。



幸町の災害公営住宅は、白を基調に棟ごとに赤や青といった色を塗り分け、アクセントにしている。間取りは1LDKから4DKの7タイプ。建物の前に立つUR都市機構の高橋寛男(右)と、磯野雄人(左)。



「みんなのまちのいま」を探検する子どもたち。40トン近い積み込み量を誇る巨大なダンプに興味津々だ。



造成がつづく自分たちのまちを眺める子どもたち。商店が並び、人が行きかうまちの姿を知らない子も多い。



森と海のエコ認証で復興ののろしを上げる

南三陸町 佐藤仁町長

高台の住宅地は今年度中に完成し、復興の大きなテーマだった「住宅再建」は第4コーナーを回ったといえると思います。震災復興は、すべて



が誰もやったことのない仕事。「絶対に下を向かない」をモットーに取り組んできましたが、経験と技術のあるUR都市機構の支援は大きな力でした。

今後も常に前を向いて、どういうまちをつくるかを考えていきたい。南三陸町は国際森林認証FSCと牡蠣の養殖で海のエコ認証ASC、この2つの認証を得る世界でも例のない唯一の地となりました。これを誇りとして、豊饒の海を守り、産業の柱である水産業と観光を盛り立てていきます。

代えられなかったという。「空気がいい、魚がうまい、出歩けば昔から見知った顔に出会う。やはり志津川が一番だ」と孝夫さん。家は病院に近いエリアにあり、被災前の家の1階とほぼ同じ間取りの平屋建て。「息子が帰省する場所もできた」と、夫妻は顔をほころばせる。

一方、造成中の商業地にも1月22日、かさ上げ地第1号の店舗がオープンした。渡辺隆さんが経営するセブンイレブン志津川十町店だ。

近くにあった旧店舗は、津波で跡形もなく流された。移動販売や仮設店舗で商売を続けたのは、「買い物する場所がないお客さまのために」という思いからだったとい

う。24時間営業の明かりが、真っ暗闇のまちの中で心強いと感謝され、本店舗オープンの日には、待ちかねた多くの客が駆けつけた。店内のレジ近くには、いつでもお供え用の花束が並んでいる。渡辺さんは来年3月、さんさん商店街の店舗が周辺に移転してくるのを心待ちにしている。

まちづくりの「今」を子どもたちへ

普段、人が立ち入ることのできない造成地で、どんな作業が行われ、どのようにまちづくりが進められているのか。子どもたちに見てもらおう試みも行われている。主催は一般社団法人南三陸復興推進ネットワーク。子どもたちに郷土

着実に建設が進む 気仙沼の災害公営住宅

気仙沼市

津波と火災で甚大な被害を受けた気仙沼市。UR都市機構では南気仙沼と鹿折の2地区で区画整理事業による土地のかさ上げ、5地区1033戸の災害公営住宅の建設を担っている。すでに完成した2地区の災害公営住宅に人々が暮らし、3月には幸町にかさ上げ地区初の災害公営住宅も完成した。平屋建ての集会所を中心に5〜7階の4棟の住宅が並ぶ姿は、造成地の中でひととき目をひく。「少しでも早く住宅を完成させるため、建設は周囲で行われるかさ上げと同時進行。工事に仮設の道を作り、道路や水道、電気などの設置を進めつつ住宅を完成させ



南郷の災害公営住宅で暮らす佐藤さん夫妻は、地元で長く理髪店を営んでいた。顔の広さを生かし、新しいコミュニティづくりに奔走している。

ました」一からまちをつくるっていく復興事業ならではの建設事情を語るのは、UR都市機構気仙沼復興支援事務所の磯野雄人だ。周囲の造成と建物の建設はこれから進んでいき、入居者は、できあがっていくまちを眺めながら暮らしていく。

建設から生活の質へ復興は新しいフェーズへ

気仙沼市は被災者の需要に100パーセント応えることを目指している。そのため、災害公営住宅への入居世帯数や世帯人数を何度もリサーチし、広さや間取りの見直しを重ねて建設を進めてきた。「厳しい状況の中、UR都市機構の住宅は予定通り、一部は1カ月ほど早く完成の見込みで、入居予定者に喜ばれています」

を知ってもらう「南三陸わらすこ探検隊」の一環で、「みんなのまちのいま」と題し、2月27日に第2回が開催された。小学校低学年を中心に集まった12人が、UR都市機構南三陸復興支援事務所の山口裕敏の先導で造成地へ。高台ではダンプなどの建設機械に目を見張り、低地では高い場所から造成地を眺め、山口が語るまちの未来に聞き入った。「まちにはどんなものが必要かな?」との問いに、「魚屋さん!」「スーパー」「野球場やサッカー場もほしい!」と元気いっぱいだ。

震災から5年がたち、低学年の子どもたちの中には震災前のまちを知らない子も多い。「まちができていく様子を見せたい」と、南三陸復興推進ネットワークがUR都市機構に話を持ち込んだ。

「僕らはまちの基盤を整備しますが、30年、40年後に実際のまちを支えるのは子どもたちです。この体験が、子どもたちがまちづくりの未来図を考えるきっかけになってくれればうれしい」

喜んでこの依頼を受けたという山口の言葉には、被災地の明日に寄せる思いがにじんでいた。



気仙沼市建設部災害公営住宅整備課の佐藤好和課長は「やっと、ここまで来た」という気持ちだと語る。

気仙沼市建設部災害公営住宅整備課の佐藤好和課長は語る。災害公営住宅の課題は建設から生活の質へと移り、今の課題は高層の集合住宅で初めて暮らす、高齢化の進む居住者のコミュニティづくりだという。

小学校跡地に建ち、入居後1年たつ南郷の災害公営住宅では、週1回のお茶っこ会や季節の催しなどが活発に開かれている。自治会長をサポートして活動に尽力しているのが、佐藤常平さん、淑枝さん夫妻だ。「難しいことも多く、たいへんです」といいつつも、廊下で住人に気軽に声をかけて立ち話に興じる。その姿が、新しい暮らしが日常に根を下ろし、着実に築かれていることを感じさせる。

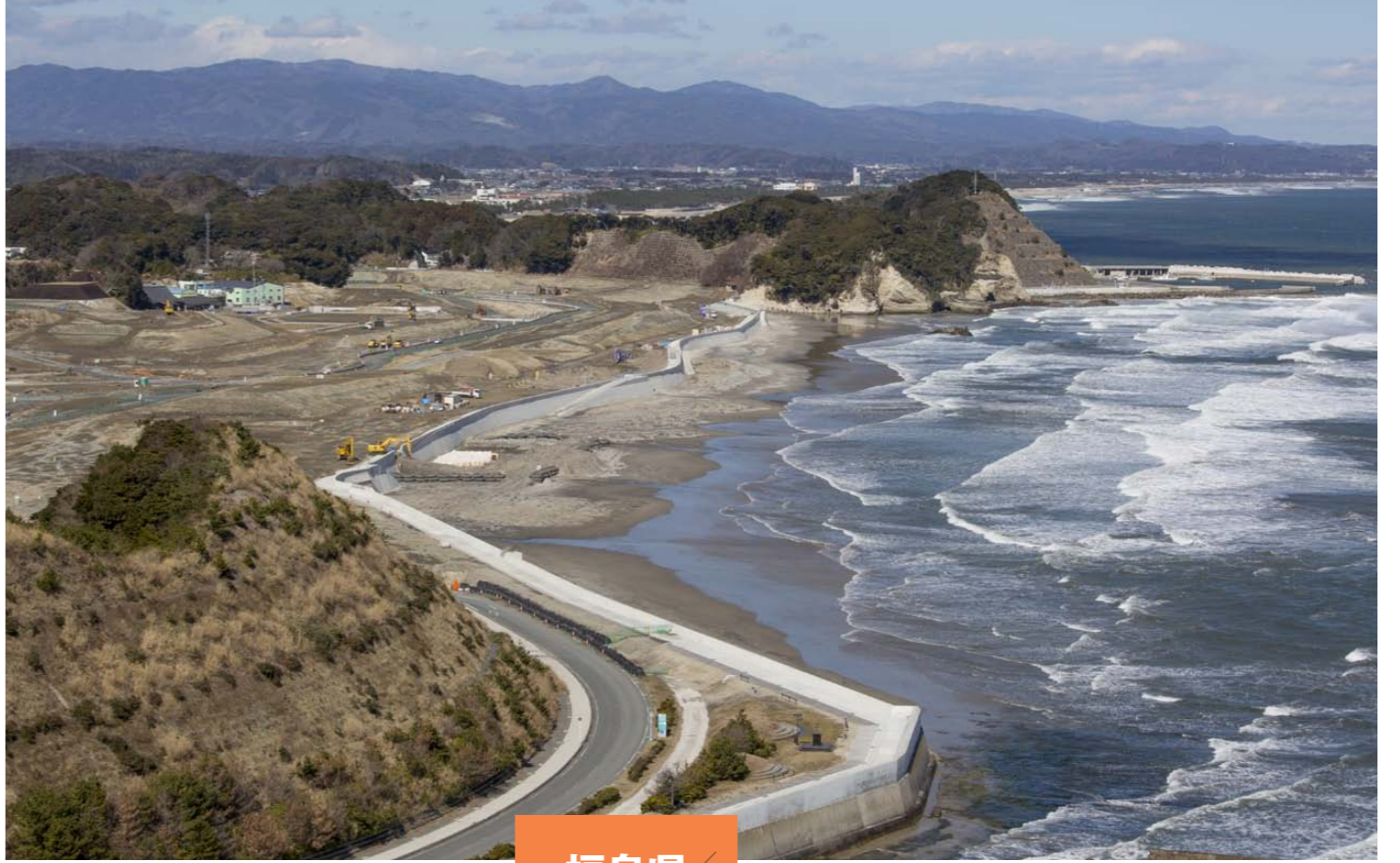
震災から5年。少しずつ形を現し、成果を見せ始めた復興のまちづくり。故郷のまちで、人々の明日はどう紡がれていくのだろうか。



塩屋崎灯台の南に広がる豊間地区でも宅地造成工事が進められている。



UR都市機構いわき復興支援事務所所長の佐藤秀城(上写真)と、工程管理を担う基盤工事課課長の本藤栄二(左)。防災緑地に植えるドングリを地元の人たちと一緒に育てるプロジェクトなどソフト面の支援にも力を入れている。



美空ひばりの「みだれ髪」にも歌われた塩屋崎灯台から望む薄磯地区。山を切り崩した造成地に約180戸の宅地が整備されつつある。

福島県

いわき市

宅地引き渡しに ふくらむ夢と期待

福島県でもいよいよ造成した宅地の引き渡しがスタート。
いわき市薄磯地区では、宅地引き渡しを前に現地見学会が開かれた。



見学会では地元の方々と談笑する大学生の姿も目立った。立教大学コミュニティ福祉学助教授の熊上崇さんが率いる学生たちがいわきを訪れるのは8回目。若者が加わることで住民の方の参加と、住民同士の交流が増えることを目指し、地域のイベントに参加している。

風光明媚なこの地に
戻りたい

「こんな高台になっているとは思わなかった!」「海が見えて景色がよくてうれしい」
明るい陽光が降り注ぐいわき市の薄磯地区で、2月21日に開かれた復興工事現地見学会。その会場は、参加した人たちの喜びと安堵の表情にあふれていた。
「自分の土地はまだ整備されていないけれど、周囲をイメージできたので安心しました。参加してよかった」と話していたのは鈴木雪子さん。津波で夫と義母を亡くした悲しみは消えないものの、震災後に東京から戻ってきた息子と一緒に高台に住むことを楽しみにしているという。

見学会では、参加している方たちが遠浅の海が広がる風光明媚なこの地に戻れることへの喜びや感謝を口にしていくことが印象に残った。そして、山の麓で親しまれていた



「高台に移転される古峯農商神社は、5年前の3月11日、多くの人が避難して一夜を明かした場所でもあります」と薄磯地区の区長・鈴木幸長さん。

UR都市機構ならではの仕事を

UR都市機構の提案で始まった現地見学会は3回目。今回は地元の方の要望を受けての開催だ。「図面だけではイメージがわからないので、実際に薄磯の人に自分の土地を確認して安心してもらいたいと思ったんです」と開催の目的を語るのはいわき市薄磯地区の区長・鈴木幸長さん。実際に参加者の表情を見て、開催してよかったと振り返る。

「防災緑地や公園、道路も整備される予定ですし、震災前より格段によい環境になると思います」とほほ笑むのは、いわき市都市建設部都市復興推進課の根本英典課長だ。「大規模開発における豊富なノウハウをもつURさん



2棟72戸の宮沢団地。県の標準プランに沿いつつも、周辺地域に配慮した色彩計画にするなどUR都市機構らしさを匂わせている。右から、福島復興支援部の山口祐基、渡邊正彦、久保田琢斗。

完成間近! 福島県復興公営住宅

UR都市機構は「福島県復興公営住宅」の建設も担当している。いわき市で建設中の「宮沢団地」もそのひとつ。原子力災害により避難指示を受けている浪江町の人々が入居予定だ。

平成23年7月に岩手県大槌町に着任以来、復興支援に取り組み、その後、福島にやって来た福島復興支援部担当役の渡邊正彦が中心になり、若手職員を現場で指導・育成している。「現場で学びながら、1日も早い引き渡しに向けて、日々懸命に取り組んでいます」と住宅計画チームの若手、山口祐基と久保田琢斗は口を揃える。



「住民の皆さんにとっては待ちに待った引き渡しです。見学によって少しでも新たな再建に希望をもっていただけなら」といわき市都市復興推進課の根本英典課長。

は簡単だが、実行するのは大変だ。「複雑に絡み合う工程を、さまざまな事業者とコーディネートしながら進める作業は、URならではの力が役立っているという自負がある」と語るUR都市機構いわき復興支援事務所基盤工事課課長の本藤栄二のように、気概をもって日々仕事に励むUR職員にとって、整備された宅地に立つ住民の方々の笑顔は大きな活力だ。新たなまちの誕生を目指して、日々地道な努力が続けられている。

「てんぐさん」と呼ばれる古峯農商神社が、高台造成地の奥に遷され残ることを、多くの方が喜んでいました。
**被害が甚大だった
2地域の復興を支援**
いわき市と協力協定を結んでいるUR都市機構は、被害の大きかった薄磯、豊間の2地区の復興まちづくりを支援している。高台移転のための市街地整備や海側の防災緑地の整備だ。「津波で約9割の家屋が全半壊したこの地では、山を切り崩して宅地を造成。高台(平均20メートル)と平場に、居住者の土地を再配置しています」
見学会で現地を案内し、参加者の質問に応じたUR都市機構いわき復興支援事務所所長の佐藤秀城



30年来の友人である大谷加代さんと一緒に見学会に参加した鈴木雪子さん(左)。海が見えるし、平場に住む予定の大谷さんとの行き来もしやすそうと喜ぶ。

大槌町



2016年3月 町方地区

©UR



2011年3月

©本田武士



2016年3月 大槌湾と町方地区

©青木登



2011年3月

©伊藤諭

釜石市



2011年3月

©本田武士



2011年3月

©伊藤諭



2016年3月 鶴住居地区

©佐藤慎吾

岩手県



2011年3月

©西村純



2011年3月

©本田武士



2016年2月 田老地区

©青木登

あの日から5年

写真で見る復興の足跡

甚大な被害をもたらした未曾有の災害から5年。
膨大ながれきを撤去して、
復興への一歩を踏み出した東北のまち。
新たなまちづくりが進む東北3県の、
5年前と今の姿を写真でお届けする。

宮古市



2015年11月 田老地区

©宮古市

山田町



2016年2月 山田地区

©佐藤慎吾



2011年3月

©本田武士



2011年3月

©西村純



2016年2月 南郷地区(南気仙沼小学校跡地)

©佐藤慎吾



2016年2月 南気仙沼地区 ©佐藤慎吾



2011年3月 ©福田正紀



2011年3月 ©佐藤慎吾



2016年2月 志津川地区

©佐藤慎吾



2011年3月 ©伊藤諭



2011年3月 ©福田正紀



2016年3月 大船渡駅周辺地区

©福田正紀



2011年3月 ©伊藤諭



2011年3月 ©福田正紀



2011年3月

©福田正紀



2011年3月

©伊藤諭



2016年3月 高田地区

©UR



2011年3月 ©伊藤諭

東松島市



2016年3月 野蒜北部丘陵地区

©UR



2011年3月 ©本田武士



2011年3月 ©本田武士

女川町



2016年3月 中心部地区

©UR



2016年3月 中心部地区 ©UR



2011年3月 ©読売新聞/アフロ



2011年3月 ©読売新聞/アフロ

福島県

いわき市



2011年3月 薄磯地区 ©UR

2015年9月



©UR

石巻市



2011年3月 ©毎日新聞/アフロ



2011年3月 ©毎日新聞/アフロ



2016年3月 新門脇地区

©UR



決して忘れず、 継続すること。 僕は東北で 多くのことを学びました コロツケ

さん ものまねタレント



東日本大震災の発生から2週間足らず。まだ携帯電話もつながらず、被災地へ向かったコロツケさん。「とにかく行かなくやいけな思ってた」と現地に着いて以来、支援活動を継続しているコロツケさんは、「大切なのは思い出すこと。そのためにも、被災者のこと、被災地で活動している人たちのことを伝えていきたい」と自身の思いを語り始めた。

被災地にはじめて 笑い声が聞こえた日

震災発生直後、どんな思いで被災地に入ったのですかとよく聞かれましたけど、言葉が見つからないんです。役に立てるか分からないし、勝手に行動する状況でもないなか、たまたま山形にいる友人が救援物資を運んでいることを聞きつけて。友人は山形から芋煮を運んでいたのですが、人がひとり乗れば、その分、運べる食糧が減ってしまふ。自分たちが車に乗ることで救援物資を減らさないように荷物をギリギリまで詰めて、芋煮の鍋を抱えるようにして、一緒に山形から福島、仙台を経由して、被災地に向かいました。

緊急支援に入っていた方々は、どこに行けばよいかわかっていました。そのときはまだ携ようですけど、そのときはまだ携に迷惑をかけた例も耳にしていたし、他のことがおそろかになってはいけなないので、まずはその場の代表者や周囲の方に、うかがいをたてました」というように、その気遣いは終始一貫している。

逆の立場で考えれば、それは当然のことなんです。避難生活をしている方にとっては、誰が来て「何しに来たんだらう、ただ来るなら何か持って来てほしかった」と思うのが当然の状況でしたし、僕自身、何であれ押しつけるのはよくないと思っていました。それで炊き出しを配って、体が温まって少しほっこりしたところで、シヨイができるか代表の方にうかがいをたてたら、「やってください」といついていただけ。

避難所になつていて体育館に入つて、みなさんに挨拶をしていると、「何かやらないの？」といわれて「やっていいですか？」と聞いたら、奥の方からも「やって」と声がかかったので、一緒に足を運んでいたコージ・富田、ツートン青木、トニー・ヒロタと僕の4人で1時間弱、ものまねをやらせていただきました。

そのとき僕は、シヨイが終わつ

帯電話もつながらないので、行った場所にはすでに別の団体が支援に入っていることもありましたが、とにかく支援が届いていない場所を探しながら動いて、最初に入ったのが宮城県石巻市でした。

「炊き出しの準備ができました」とお声がけると、30分くらいで500〜600人の方が並びます。そんな状況のなかで物資を配布しているとき、列に並んでいたおばさまに「何かやってよ」といわれたんです。ものまねをするつもりで行ったわけではなかったし、今はそういうものを見たくないという人も当然いると思ったので、「(や)って」いいんですか？」と聞くとそのおばさまが一言「笑ってないのよ、ずっと」って。周りの方も、やってほしいという感じで笑顔をを見せてくれたので、リクエストに応えて、そこにあつた拡声器を使

て「それじゃあ」とその場を去るのはよくないと思ったので、並んでくださる方がいる間は、写真とサインに応じることにしたんです。ただ、そうなるのと1カ所に3〜4時間滞在するので、1日4カ所回るのが精一杯でした。

2回目以降は自分にも少し余裕ができてきましたけど、当初は道も寸断されていたので、行ける所を探りながら、小さい所で20〜30人、大きい所だと700人以上の方がいる避難所をいくつも回りました。現地に入つて、みなさんと言葉を交わす。その時点で責任が生まれたと、僕は思ったんです。亡くなった方が大勢いるなかで生き残った方々に、雰囲気だけで安易な言葉を口にして、後で忘れてしまふのはいっばん失礼なことだから、ずっと関わってほしいと。実際、あの津波を経験した当事者同士では、話せば話すほどつらくなることも、僕たち部外者には話せることもあるようで、「ほっとしました」といわれたときは、こうやって話を聞くことも支援になるのかなと思えました。



2011年
3月25日〜27日
宮城県石巻市

って森進一さんの「おふくろさん」をやらせてもらいました。その場に笑い声が上がると、僕らが来ていることを知らない人たちも、どうしたんだとざわざわして。たぶん震災直後から、ずっと気を張ってがんばってきたけれど、なかなか物資も届かず、いろいろなことが滞っていたこの時期、みなさんは憔悴しきつていたんだと思うんです。そんなとき、初めて聞こえてきた笑い声に、多くの方が反応したのだと思います。

決して忘れず ずっと関わっていく

実はこのとき、先に炊き出しをもらった女性の「コロツケが来た！」という知らせを聞いて、食べ物のコロツケだと思って駆けつけた女性が、コロツケ違いに大笑いした「自分の名前を恨んだ事件」があつたそうで、次からは救援物資にコロツケを加えたというコロツケさん。

被災した方々の笑顔を見たとき、ものまねで役に立てることもあるのかなと思つたというものの、「芸能人が被災地に入ること、現場



Stage Information

笑って泣いて 楽しもう!
明治座6月 コロケ特別公演
スペシャルゲスト 青木隆治
第一部 古典落語「死神」「文七元結」より 神隠し!?
第二部 コロケものまね オンステージ2016



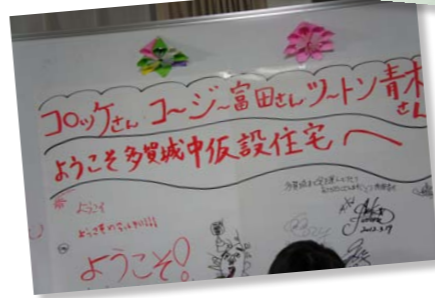
今回は第一部で大好きな落語をもとにしたお芝居をやる予定です。古典落語の「死神」と「文七元結」をミックスした「神隠し!?」です。笑いの世界から人情喜劇が減っている昨今、人情のある物語が残っているのが落語の世界。喜劇の世界に生きてきた中村メイコさん、佐藤B作さんを迎えて、お芝居では泣いて笑って泣いて笑っての世界をお届けします。

もう一つ考えているのが「ものまね楽語」で、自分でいうのも何ですけど、これはおもしろいと思います。スペシャルゲストに青木隆治さんを迎え、ものまねも含めてすべてが見所というショーをお届けします。どうぞお楽しみに。

公演期間 6月1日(水)~6月28日(火)
場所 明治座(東京都中央区)
お問い合わせ 明治座チケットセンター
☎03-3666-6666
https://web.meijiza.com/



2012年5月12日
福島県南相馬市



2012年3月19日
宮城県石巻市、多賀城市

2011年5月26日、27日 岩手県
(大槌町、山田町、釜石市、宮古市)

被災地にも
神様はたくさんいた

今、コロケさんがいちばん考えているのが子どもの支援。子どもたちのために、素敵な大人がひとりでも多くいることが大事だと思っています。

ある避難所で、女の子が自分と友達の分のサインをくださいと、折り紙を2枚持ってきたんです。「友達にも渡してあげてね」といって折り紙を返すと、「友達は天国に行ったので、これは私が天国に行くときに持って行きます」とその子に笑顔でいわれて……。

自分に何ができるかと考えたとき、東北に限らず、子どもが犠牲になる事件の少なくない今の日本、ついたんです。

まだ自分の家族の安否もわからないなかで、翌日から地域のために動き出した人、ボランティア、自衛隊、警察、消防……みんなのために活動するそういう人たちが、僕には神様に見えてきました。人間の力はやっぱりすごい。僕らはそれを伝えていこう。そして、何か感じてもらえた人に動いてもらうしかないだろうと思いました。今も賛同してくれる仲間たちと年に一度、「ものまねキャラバン」を開催して、その収益金を義援金として送っていますが、一緒に避難所を回った仲間たちと「自分たちは、このためにもものまねを覚えたいんじゃないか」と話すことがあるんです。僕は今まで、ものまねはご本人とファンの方にとっては

コロケ
1960年生まれ、熊本県出身。1980年のデビュー以来、テレビ、ラジオに出演するかわら、全国でもものまねコンサートや劇場での座長公演を務める。
ものまねタレントの第一人者。2016年日本芸能大賞を受賞。
その一方で東日本大震災被災地支援活動を精力的に行い、2012年防衛省防衛大臣特別感謝状を授与されている。

世の中に対して、大人が話し合っ てきちんとしていかないといけない と思っていたんです。大きなことが できるわけではないし、自分の考 えが必ずしも正しいわけではない けれど、僕は人前に立たせていた だく仕事をしているのだから、と にかく動こうと思っています。

最初に東北に行ったときは、神様はいないんだなあと思いました。もしいるなら、せめて1時間前でもいいから、地震や津波が来ることを教えてくれればいいのにと。物資を配り終え、仮眠をとる車の中や、物資を入手できる場所まで夜中に車を走らせながら、神様って何だろうと自問自答していました。でも、考えているうちに、実は神様はたくさんいることに気が

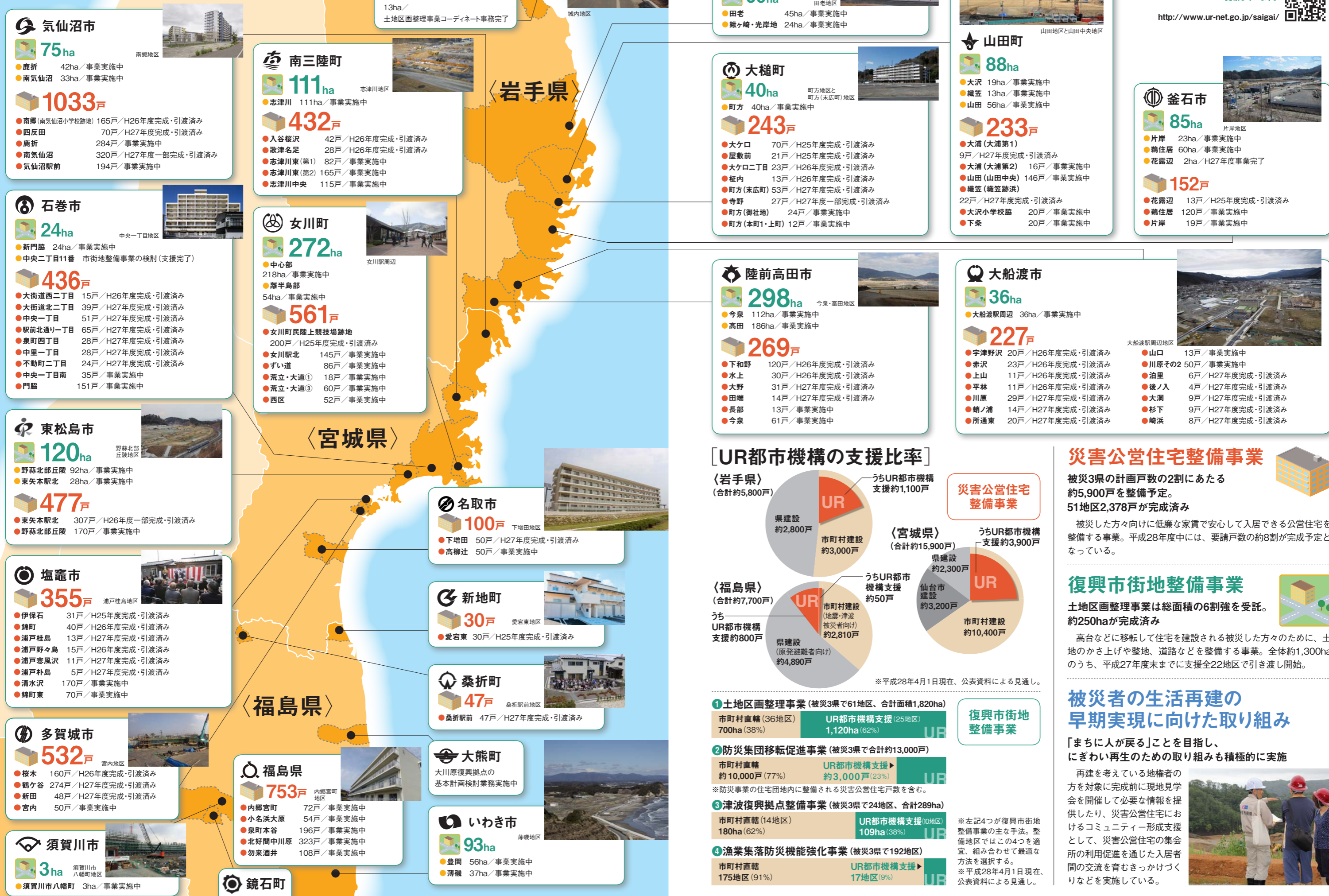
目の上のたんこぶ」のようなもの だと思っていたんです。でも、ものまねは一瞬でわかる笑い、最速の笑いで、つらい思いをしている人々に笑顔を届けることができ るんだと、これも被災地で考えて 気づきました。

風化という言葉はいやですが、震災から5年たって、忘れてい る方、気にならなくなっている方が 増えているのは事実です。東北以 外でも各地で自然災害が起きてい るし、人間だから忘れるのは仕方 ないけれど、何かのきっかけで思 い出すこと、そうやって気持ちを 継承することが大事なことでな いかと思います。そういうこと を考えるようになったのも東北に 通い出してからで、僕自身、東北 で多くのことを教えられました。



UR都市機構が取り組む復興支援MAP2016

※データは平成28年4月10日時点 ※災害公営住宅整備事業の表記戸数は建設計画戸数



気仙沼市

75ha

- 鹿折 42ha / 事業実施中
- 南気仙沼 33ha / 事業実施中

1033戸

- 南郷 (南気仙沼小学校跡地) 165戸 / H26年度完成・引渡済み
- 四反田 70戸 / H27年度完成・引渡済み
- 鹿折 284戸 / 事業実施中
- 南気仙沼 320戸 / H27年度一部完成・引渡済み
- 気仙沼駅前 194戸 / 事業実施中

石巻市

24ha

- 新門脇 24ha / 事業実施中
- 中央二丁目11番 市街地整備事業の検討(支援完了)

436戸

- 大街道西二丁目 15戸 / H26年度完成・引渡済み
- 大街道北二丁目 39戸 / H27年度完成・引渡済み
- 中央一丁目 51戸 / H27年度完成・引渡済み
- 駅前北通り一丁目 65戸 / H27年度完成・引渡済み
- 泉町四丁目 28戸 / H27年度完成・引渡済み
- 中里一丁目 28戸 / H27年度完成・引渡済み
- 不動町二丁目 24戸 / H27年度完成・引渡済み
- 中央一丁目南 35戸 / 事業実施中
- 門脇 151戸 / 事業実施中

東松島市

120ha

- 野蒜北部丘陵 92ha / 事業実施中
- 東矢本駅北 28ha / 事業実施中

477戸

- 東矢本駅北 307戸 / H26年度一部完成・引渡済み
- 野蒜北部丘陵 170戸 / 事業実施中

塩竈市

355戸

- 伊保石 31戸 / H25年度完成・引渡済み
- 錦町 40戸 / H26年度完成・引渡済み
- 浦戸桂島 13戸 / H27年度完成・引渡済み
- 浦戸野々島 15戸 / H26年度完成・引渡済み
- 浦戸寒風沢 11戸 / H27年度完成・引渡済み
- 浦戸朴島 5戸 / H27年度完成・引渡済み
- 清水沢 170戸 / 事業実施中
- 錦町東 70戸 / 事業実施中

多賀城市

532戸

- 桜木 160戸 / H26年度完成・引渡済み
- 鶴ヶ谷 274戸 / H27年度完成・引渡済み
- 新田 48戸 / H27年度完成・引渡済み
- 宮内 50戸 / 事業実施中

須賀川市

3ha

- 須賀川市八幡町 3ha / 事業実施中

南三陸町

111ha

- 志津川 111ha / 事業実施中

432戸

- 入谷桜沢 42戸 / H26年度完成・引渡済み
- 歌津名足 28戸 / H26年度完成・引渡済み
- 志津川東(第1) 82戸 / 事業実施中
- 志津川東(第2) 165戸 / 事業実施中
- 志津川中央 115戸 / 事業実施中

女川町

272ha

- 中心部 218ha / 事業実施中
- 離半島部 54ha / 事業実施中

561戸

- 女川町民陸上競技場跡地 200戸 / H25年度完成・引渡済み
- 女川駅北 145戸 / 事業実施中
- すい道 86戸 / 事業実施中
- 荒立・大道① 18戸 / 事業実施中
- 荒立・大道③ 60戸 / 事業実施中
- 西区 52戸 / 事業実施中

名取市

100戸

- 下増田 50戸 / H27年度完成・引渡済み
- 高柳辻 50戸 / 事業実施中

新地町

30戸

- 愛宕東 30戸 / H25年度完成・引渡済み

桑折町

47戸

- 桑折駅前 47戸 / H27年度完成・引渡済み

福島県

753戸

- 内郷宮町 72戸 / 事業実施中
- 小名浜大原 54戸 / 事業実施中
- 泉町本谷 196戸 / 事業実施中
- 北好間中川原 323戸 / 事業実施中
- 勿来酒井 108戸 / 事業実施中

鏡石町

復興まちづくり事業
計画策定業務完了

野田村

13ha

- 城内 13ha / 土地区画整理事業コーディネート事務完了

大熊町

大川原復興拠点の
基本計画検討業務実施中

いわき市

93ha

- 豊間 56ha / 事業実施中
- 薄磯 37ha / 事業実施中

宮古市

69ha

- 田老 45ha / 事業実施中
- 鍛ヶ崎・光岸地 24ha / 事業実施中

大槌町

40ha

- 町方 40ha / 事業実施中

243戸

- 大ケ口 70戸 / H25年度完成・引渡済み
- 屋敷前 21戸 / H25年度完成・引渡済み
- 大ケ口二丁目 23戸 / H26年度完成・引渡済み
- 碓内 13戸 / H26年度完成・引渡済み
- 町方(末広町) 53戸 / H27年度完成・引渡済み
- 寺野 27戸 / H27年度一部完成・引渡済み
- 町方(御社地) 24戸 / 事業実施中
- 町方(本町1・上町) 12戸 / 事業実施中

陸前高田市

298ha

- 今泉 112ha / 事業実施中
- 高田 186ha / 事業実施中

269戸

- 下和野 120戸 / H26年度完成・引渡済み
- 水上 30戸 / H26年度完成・引渡済み
- 大野 31戸 / H27年度完成・引渡済み
- 田端 14戸 / H27年度完成・引渡済み
- 長部 13戸 / 事業実施中
- 今泉 61戸 / 事業実施中

山田町

88ha

- 大沢 19ha / 事業実施中
- 織笠 13ha / 事業実施中
- 山田 56ha / 事業実施中

233戸

- 大浦(大浦第1) 9戸 / H27年度完成・引渡済み
- 大浦(大浦第2) 16戸 / 事業実施中
- 山田(山田中央) 146戸 / 事業実施中
- 織笠(織笠跡浜) 22戸 / H27年度完成・引渡済み
- 大沢小学校脇 20戸 / 事業実施中
- 下条 20戸 / 事業実施中

釜石市

85ha

- 片岸 23ha / 事業実施中
- 鶴住居 60ha / 事業実施中
- 花露辺 2ha / H27年度事業完了

152戸

- 花露辺 13戸 / H25年度完成・引渡済み
- 鶴住居 120戸 / 事業実施中
- 片岸 19戸 / 事業実施中

大船渡市

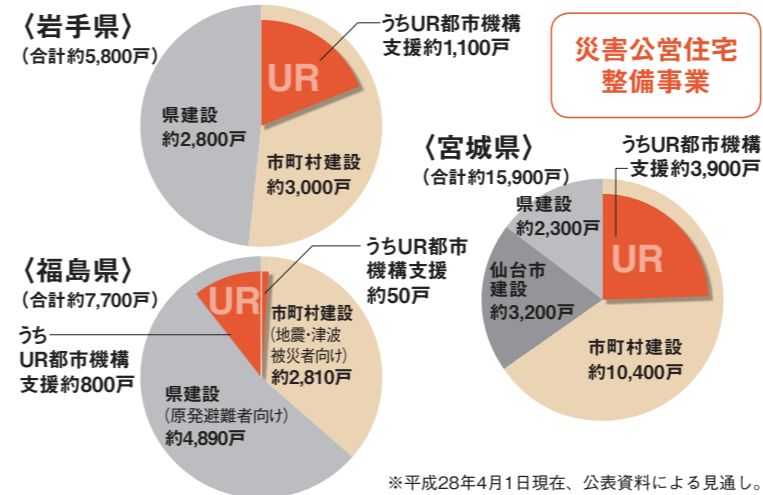
36ha

- 大船渡駅周辺 36ha / 事業実施中

227戸

- 宇津野沢 20戸 / H26年度完成・引渡済み
- 赤沢 23戸 / H26年度完成・引渡済み
- 上山 11戸 / H26年度完成・引渡済み
- 平林 11戸 / H26年度完成・引渡済み
- 川原 29戸 / H27年度完成・引渡済み
- 蛸ノ浦 14戸 / H27年度完成・引渡済み
- 所通東 20戸 / H27年度完成・引渡済み
- 山口 13戸 / 事業実施中
- 川原その2 50戸 / 事業実施中
- 泊里 6戸 / H27年度完成・引渡済み
- 後ノ入 4戸 / H27年度完成・引渡済み
- 大洞 9戸 / H27年度完成・引渡済み
- 杉下 9戸 / H27年度完成・引渡済み
- 崎浜 8戸 / H27年度完成・引渡済み

UR都市機構の支援比率



災害公営住宅整備事業

被災3県の計画戸数の2割にあたる約5,900戸を整備予定。51地区2,378戸が完成済み

被災した方々向けに低廉な家賃で安心して入居できる公営住宅を整備する事業。平成28年度中には、要請戸数の約8割が完成予定となっている。

復興市街地整備事業

土地区画整理事業は総面積の6割強を受託。約250haが完成済み

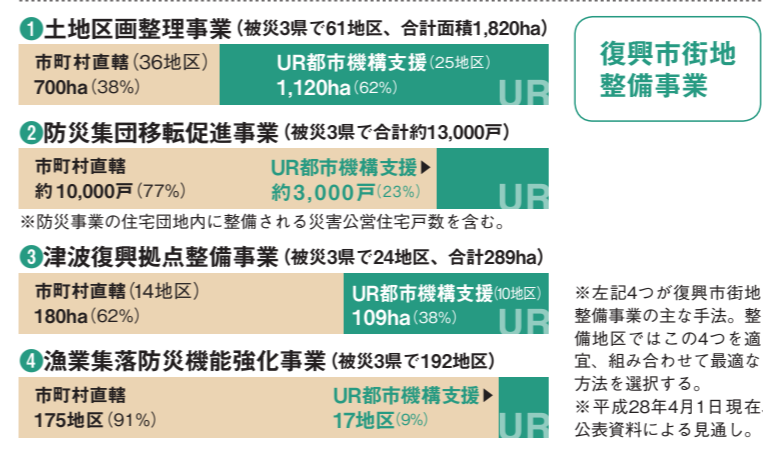
高台などに移転して住宅を建設される被災した方々のために、土地のかさ上げや整地、道路などを整備する事業。全体約1,300haのうち、平成27年度末までに支援全22地区で引き渡し開始。

被災者の生活再建の早期実現に向けた取り組み

「まちに人が戻る」ことを目指し、にぎわい再生のための取り組みも積極的に実施

再建を考えている地権者の方を対象に完成前に現地見学会を開催して必要な情報を提供したり、災害公営住宅におけるコミュニティー形成支援として、災害公営住宅の集会所の利用促進を通じた入居者間の交流を育むきっかけづくりなどを実施している。

復興市街地整備事業





サイン色紙を手にとり。

1 月、57回目の訪問となったのは、まだ雪が降り積もる福島県南相馬市。向井地美音、藤田奈那、茂木忍、川本紗矢、込山榛香、高橋朱里の6名が、大きな笑顔とダンス、そして歌を、会場「さくらホール」に集まった皆さんにお届けした。



福島県 南相馬市・さくらホール



石巻子どもセンターで、たくさんの子どもたちと交流。

2 月には大家志津香、大和田南那、小嶋菜月、宮崎美穂、加藤玲奈、木崎ゆりあの6名が宮城県石巻市を訪問。58回目となる

宮城県 石巻市・石巻子どもセンター 河南農村環境改善センター

「誰かのために」プロジェクトで、メンバー全員が全力で歌った。どの訪問地でもそうなのだが、ステージ後にAKB48のメンバーとハイタッチをする子どもたちの表情は、みんな笑顔で輝いている。メンバーの笑顔はしっかりと東北の子どもたちにも届いている。

「誰かのために」プロジェクトで、メンバー全員が全力で歌った。どの訪問地でもそうなのだが、ステージ後にAKB48のメンバーとハイタッチをする子どもたちの表情は、みんな笑顔で輝いている。メンバーの笑顔はしっかりと東北の子どもたちにも届いている。

河南農村環境改善センターも笑顔でいっぱい。



会場は2,000名もの観客の熱気に包まれた、盛岡市でのチャリティコンサート。



東 日本大震災から丸5年が経過しようとしていた2016年3月6日、盛岡市の会場には約2000名もの人々が集まった。AKB48が震災直後から被災地訪問を続けてきた「誰かのために」プロジェクトも、すでに59回目。今回は選抜メンバーがほとんど集まり、総勢26名でのチャリティコンサートとなった。小嶋陽菜、峯岸みなみ、柏木由紀、渡辺麻友、横山由依をはじめ、加藤玲奈、岩田華怜、高橋朱里、

岡田奈々、小嶋真子、西野未姫、込山榛香、向井地美音、湯本亜美、後藤明咲、木崎ゆりあ、佐藤七海、佐藤朱、舞木香純、松井珠理奈、松村香織、山本彩、藤江れいな、指原莉乃、北原里英、加藤美南という豪華メンバーである。会場はものすごい熱気と笑顔であふれんばかりだ。総監督の横山由依がいう。「盛岡に集まってくれた人たちの熱い思いが伝わりました。私たちが笑顔をお届けするには、私たち自身が輝いてなくてはならない。そういう思いでメンバー全員が頑張っています。だから皆さんにもその笑顔が届いたのではないのでしょうか？」



届け！
第4回
笑顔

AKB48
「誰かのために」プロジェクト
東北復興支援

岩手県 盛岡市・県民会館

「誰かのために」プロジェクトのすべてがここに
「AKB48、被災地へ行く」

石原 真著 岩波ジュニア新書 1,000円(税別)

Information

2011年5月22日、AKB48の被災地訪問の1回目が行われた。篠田麻里子、大島優子など当時の主力メンバー6名が、「とにかく行ってみよう。何か役に立てることがあるかもしれない」との思いを胸に、岩手県大槌町と山田町へ。機材をすべて持ち込んでミニライブを行い、ライブの後には可能な限りハイタッチ会を行うという今に続くスタイルは、この時に生まれた。

それから5年。AKB48の「誰かのために」プロジェクトは60回を数え、今も続けられている。この本はこのプロジェクトに同行している著者がまとめたAKB48の活動の記録であり、少しずつ変化する被災地のレポートでもある。未曾有の被害を受けた人々を前にして、彼女たちは何を感じ、どう成長していったのか。人気アイドルたちの知られざる姿が共感を呼ぶ。



人気プロガーの 団地DIY術 ⑧



Before
小さな冷蔵庫を使っていた頃。キッチン横の壁にベンキを塗り、棚を取り付けました。

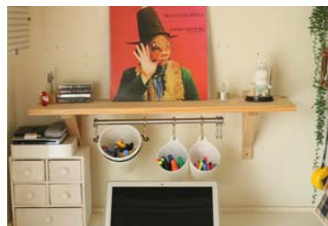
After 現在



子どもが生まれてから大きめの冷蔵庫を購入。そのため、棚板のサイズを変え、位置を変更して取り付け直しました。



壁を活用してCD収納の棚も。



改造した押入れのワークスペース内に取り付けた棚。

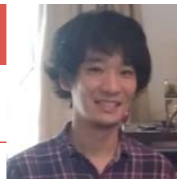
「UR PRESS」オンライン版では関西在住のプロガー Kume MariさんのDIY術を紹介しています。「UR PRESS」で検索してください。

団地をリノベーションすることで、自分らしい、心地よい暮らしを実現している東西の人気プロガーが交替でDIYの楽しみ、ポイントを伝授します！

Blogger

Makees (関東在住 妻と子どもの3人暮らし)

自由にカスタマイズできる 便利な棚



棚 といえば、収納したり飾ったりする目的がありますが、わが家ではその棚をできるだけ、壁に取り付けるようにしています。理由は、無駄なスペースを極力なくし、有効に活用するためです。取り付け方法は、IKEAやホームセンターでブラケット（棚受け）を購入し、希望のサイズにカットした棚板を載せて。分譲なのでインパクトドライバーで取り付けましたが、最近ではディアウォールというはめ込むと柱ができる便利なものが売られているので、賃貸の方は活用してみるといいかもしれません。

キッチン横の壁は冷蔵庫を買い替えたときに、棚もサイズを変えて取り付け直しました。新しい家具や家電が入っても自由にカスタマイズできるのも、取り付け棚の良いところ。既製品ではサイズ変更などが難しいので！ ぜひお試しください。

キッチン横の壁は冷蔵庫を買い替えたときに、棚もサイズを変えて取り付け直しました。新しい家具や家電が入っても自由にカスタマイズできるのも、取り付け棚の良いところ。既製品ではサイズ変更などが難しいので！ ぜひお試しください。

Makeesさんのブログ「築50年の団地再生ライフ」
<http://palette.blush.jp/blog/>

ごきげん朝ごはん
「そうだ、あれ食べよう！」は最高のめざまし
若山曜子 / 講談社 1,296円

1日のスタートはちゃんとした朝ごはんから！ カリカリベーコンパンにスフレパンケーキ、エッグスラットと揚げ焼きフレンチトースト……。毎日、朝起きるのが楽しみになるくらい素敵な朝食のオンパレードです。



吉祥寺だけが住みたい街ですか？(1)
マキヒロチ / 講談社 610円

「いつかティファニーで朝食を」で一躍人気作家となったマキヒロチの新作は、なんと不動産マンガ。吉祥寺で不動産業を営む双子が、吉祥寺「以外」の街の素敵な物件を紹介し尽くします。引っ越し欲が刺激される一冊。



春 は気分を新たに生活の襟を正したくなる、そんな季節。そこで今回は新生活をより心地よいものにするための助けとなる本をご紹介します。
大人気ブログ「片付けたくなくなる部屋づくり」を運営している整理収納コンサルタントの本多さおりさんは、家事のスペシヤリスト！ そんな彼女が出した「みんなの家事ブック 本多さおりの「家事がしやすい」部屋探訪」には、気分よく家事をこなすためのヒントが詰まっています。

本書では、本多さんのお宅を中心に、素敵に家事を楽しんでいるお宅のアイデアを、たくさんのお宅の事例を交えながらご紹介。収納、炊事、洗濯、掃除といった、淡々と繰り返すだけになってしまいがちな家事ですが、ちょっとした工夫でこうも楽しくなるものかと驚かされます。誌面に登場する皆さんに共通する家事に対する考え方は、「無理をしないこと」と「楽しんでやること」。本書を片手にラクラクして楽しい新生活を目指してみたいかがでしようか。



みんなの家事ブック
本多さおりの「家事がしやすい」部屋探訪
本多さおり / マイナビ 1,350円

ブックセレクト
三田修平 みたしゅうへい

ブックディレクター。移動式本屋「BOOK TRUCK」で全国各地のイベントなどに参加するほか、2015年に本と日用品の店「三田商店」を横浜市内に開店。
<https://www.facebook.com/Booktruck>



ベランダ菜園の楽しみ ⑧

たなかやすこ

今号のテーマ

ゴマ栽培は、意外にもベランダが向いている



日 本人にとって古くからなじみのあるゴマは、ミネラルやたんぱく質、強い抗酸化作用を持つゴマグリニンなど、健康に良い成分を多く含むことで、ますます注目されています。しかしそのほとんどを輸入に頼っており、国内では九州や西日本を中心にわずかに栽培されているだけです。

生産量が減少したのは、収穫に手間がかかることが大きな理由のようです。ゴマはさやの中に小さな種（これがゴマです）がたくさんできます。さやは熟すと弾けて、種を地面にばらまいて子孫を残します。つまり、刈り取りにはタイミングが大事なのです。

株ごとタイミングよく刈り取ったら乾燥させ、ゴマ（種）を取り出し、さやのかけらや葉などの細かいごみとを分けるのが大変な手間です。



スプラウトに育てて食べるのもおすすめ。

しかし、家庭でコンテナを使って栽培する程度なら、収穫後の選別もさほどの手間ではありません（「point!」参照）。栽培も難しくないので、ぜひ挑戦して、貴重な国産のゴマを収穫してほしいと思います。アフリカのサバンナが原産といわれるだけあって、暑さと乾燥に強く、熱帯夜の続いた夏にも、わが家（関東地方）のベランダでとてもよく育ちました。

5月中旬から6月に種をまき、9月から10月に収穫できます。間引き菜も食べられますし、ゴマとして食べずにスプラウトとして育てるのもおすすめ。少し苦味がありますが、私はサラダにして楽しんでいます。

point! さやを摘んで収穫しましょう

花は株の根元のほうから咲き、さやができます。根元から刈り取らず、黄色くなったさやから順に摘んで、風通しのよい場所で自然乾燥させましょう。乾燥させているうちに弾けるので、ゴマが飛び散ってなくなってしまうなどということがないように、目の細かい排水ネットなどに入れておくのがおすすめです。

cultivation 育ててみよう! ゴマ

ゴマが栽培されている様子を見たことがある人は、少ないのではないのでしょうか？ ぜひ自分で育てて、どんな花が咲くのかしら？ どんなふうになるかしら？ といった好奇心を満足させましょう。

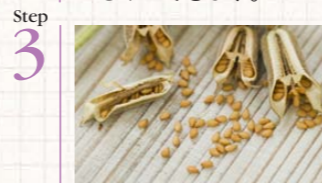
Step 1 コンテナに鉢底石を敷き、培養土を入れ種をまきます。数回間引いて、本葉が5、6枚の時に10センチ間隔になるようにします。乾燥に強いので水はけのよい土で、水のやりすぎにも注意します。



よく見ると双葉にも産毛が。空気中に含まれる水分を上手に取り込むための植物の知恵だ。



Step 2 草丈は60～100センチ程度になります。薄紫色の花が咲き、茎の根元のほうから順番にさやができます。

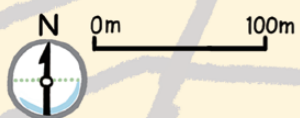


摘み取ったさやは乾燥させます。1つのさやに80粒程度のゴマが詰まっています。写真は金ゴマです。

URのまち あのみち.このまち. 大阪市 歩いてみよう!その6 うめきた周辺

URが手がけた土地が、時を経て、素敵なまちに育ちました。地図を手に歩いてみませんか?

開発前	開発期間(1期/2期)
貨物ヤード	2005年-2012年/2015年-2026年(予定)



2008年に英誌「THE TIMES」に「世界の建築TOP20」として掲載されて人気大復活!

ほかには..... パルテノン神殿 シドニーオペラハウスなど

いろいろ

グランフロント大阪ピックアップ

北館 **南館** **創造のみち** **うめきた広場**

(B1F) **世界のビール博物館**
世界のワイン博物館
ビールとワインの種類が豊富。

天井に枕木
前方天井に見えるゴツゴツとカッコいいブロック群は線路の枕木の再利用。

ぐるなび(1F)
梅田エリアの飲食店を希望に合わせて検索・紹介してくれる。

ALL DAY COFFEE (B1F.うめきたセラー)
オリジナルグッズもいろいろ。トートバッグは特に人気。

ナレッジキャピタル (B2F~13F)

企業や大学、クリエイターが最新の技術を発信。それを来館者が体験し、自分の意見やアイデアを発信者に伝えることができます。

The Lab. ギャラボツアー
ナレッジキャピタルの魅力が凝縮された「ラボ」を回って体験!

① 毎日15時、3Fアクティブラボで体操からスタート
② 3Fと2Fのアクティブラボで体験ごまみ
③ 1Fのカフェラボを見学
紙の本も電子書籍も読めるカフェ。

(6F) 近畿大学 水産研究所
近大で養殖した魚を提供。近大卒の魚と紀州の恵みのおいしさは、毎日の行列も納得!

レストランも「ここだけ!」を発信
旬野菜で美しく健康を

(6F) Smart Camp
旬穀旬菜

ロート製菓の福利厚生施設のSmart Campを一般向けに展開。プレミアムランチ 1,980円!

近大マグロと選抜鮮魚の海鮮丼 1,850円

三國清三シェフプロデュース「菜膳フレンチ」

40Fにあるかわいいハイベント。その名も「エスカルゴキャビン」

高さ約170m、360°ビューの空中庭園は、世界中の観光客で大にぎわい。

新里山「花野」 **40F 展望フロア**

梅田スカイビル **CAFE TIPO8**
珍しい産地の豆も扱う自家焙煎カフェ。

いちよう並木 全長約500m!

ザガーデン 広々とした地上庭園

せせらぎのみち 南館からずっと建物にそって小川のようなせせらぎが

テラスガーデン 南館・北館の9F屋上にある計10,000㎡超の緑あふれる屋上庭園

梅田スカイビル **CAFE TIPO8**
珍しい産地の豆も扱う自家焙煎カフェ。

コーヒーの勉強を重ねて広告会社員から転職。地下道を出てすぐのこのあたりは不思議と落ちついたエリアです。

創造のみち 大阪駅~南館~北館を貫くメインストリート

うめきたSHIP 広場に停泊する船をイメージ

うめきた開発 2期区域 特急「はるか」がとまる新駅も地下に設置予定!

広大な更地!「みどり」イノベーションの融合を目標に開発進行中!

うめきた開発 2期区域

ここで働いていると新しいもの・刺激的なものがどんどんやってくるので、とっても楽しいです!

ナレッジキャピタル コミュニケーター
桑原彩華さん 宮内龍太郎さん

2F 日本市
オリジナルの大阪限定品や大阪産品も多く、そろそろ「日本の土産物」ショップ

14F 天空の農園
11Fから14Fまで軽いハイキング気分が登るとそこにはステキな農園が.....

たこ焼き だるまみくじ つまようじ差し 中におみくじ

行列のできるたこ焼き店「わか」のたこ焼きセット 80個分!

収穫のおすそわけ一袋無料で持ち帰れる。無農薬・とれたてでおいしい!

世界に開かれた最前線のまち グランフロント大阪

24haという広大な貨物ヤード跡地に新しいまちをつくる「うめきたプロジェクト」。まずはそのうちの7haに新しい魅力が詰まった「グランフロント大阪」がオープン!(2013年4月26日~)

命のうめきた 一般公募で決定!

水都大阪、水と緑をたくさん配置して表現!

この不思議な形、実は通気孔。子どもの水遊びOK!

うめきた広場 ヨドバシ梅田

うめきた開発 2期区域 特急「はるか」がとまる新駅も地下に設置予定!

14F 天空の農園
11Fから14Fまで軽いハイキング気分が登るとそこにはステキな農園が.....

たこ焼き だるまみくじ つまようじ差し 中におみくじ

行列のできるたこ焼き店「わか」のたこ焼きセット 80個分!

収穫のおすそわけ一袋無料で持ち帰れる。無農薬・とれたてでおいしい!

うめだ巡りに便利!

うめぐるバス 1周約30分でうめきたから北新地まで梅田エリアを一巡り。1回100円、1日券200円。

うめぐるチャリ 1時間200円、以降100円/時間のレンタルサイクル。電動アシスト車もあり。

JR大阪環状線 **JR大阪駅** **阪神梅田駅** **阪神 梅田本店** **阪急 梅田本店** **阪急 うめだ本店**

酒処 奴 樽酒、つまみ、ど水もおいしい大人気の立ち呑み店

串揚げ 松葉総本店 串の開きで値段がわかる!

たこ焼き はなだこ 「たこせん」 たこ焼き 2個入

新梅田 食道街 (ガド下) 開業は昭和25年。網目状の通路をはさんで小さいお店が約100軒連なる食道街。

HEP FIVEの観覧車 高さ106m。1周15分で500円。

お初天神裏参道 大阪の人気飲食店が集結して去年3月にオープン。Let's道呑み!

お初天神 (露天神社) 近松門左衛門の「曾根崎心中」は、境内の天神の森で実際にあった心中事件が題材。今は縁結びの神として有名。

お初天神 近松門左衛門の「曾根崎心中」は、境内の天神の森で実際にあった心中事件が題材。今は縁結びの神として有名。

UR都市機構からのお知らせ

SHOP OPEN!

東北3県から「おいしい・楽しい」を届ける
「がんばる東北しょっぶ」オープン!

岩手、宮城、福島の東北3県にはおいしい海の幸、山の幸がたくさんあります。東日本大震災で大きな被害を受けたこれらの地域では加工所などの再建が進み、より多くの人々に東北の味を知っていただきたいと頑張る人たちがたくさんいます。

東北3県で復興事業に取り組むUR都市機構は、東北の商店や事業所を応援しようと、国内最大の通販サイト「楽天市場」にオープンした「がんばる東北しょっぶ」に協賛しています。

宮城県奥松島の牡蠣や、献上海苔として名高い海苔。岩手県山田町の豚井専用のたれや刺身醤油。福島県からはB-1グランプリ公認の「なみえ焼きそば」……。 「がんばる東北しょっぶ」には、東北3県の海産物から加工食品、麺、菓子などが幅広くそろっています。ここで買い物をすることが、東北の皆さんの励みにもなります。ぜひ「がんばる東北しょっぶ」をのぞいてみてください。

<http://www.rakuten.ne.jp/gold/ganbarutohoku-shop/>

「がんばる東北しょっぶ」で検索



金華鯖すし
三陸沖で獲れる幻のサバ、金華鯖で作るすし。



唯のなみえ焼きそば製麺工場 めんの旭屋
福島県浪江町にて昭和10年の創業以来、「おいしさが生き残り」をつくり続けています。

なみえ焼きそば
約60年続いた伝説的な福島県浪江町で、労働者のための安くて美味しい「なみえ焼きそば」が誕生しました。秘伝の麺の製法と独自のたれが、つゆとろい「なみえ焼きそば」は、国内20の飲食店で提供されています。それぞれの店で独自のメニューにしていますが、市民に愛され続けたメニューの「つゆとろい」。

合資会社 旭屋
〒979-1821 福島県浪江町大字南浪江字上原1-11番地 TEL:0240-36-2217 FAX:0240-983-7220
浪江工場 〒979-0202 福島県浪江町浪江字上原1-11番地 TEL:0240-36-2217 FAX:0240-983-7220
浪江工場 〒979-0202 福島県浪江町浪江字上原1-11番地 TEL:0240-36-2217 FAX:0240-983-7220



献上海苔
東松島市「のり工房矢本」の、漁師のお嫁さんたちが作った高品質の海苔。

なみえ焼きそば
超極太麺にからむ特製ソースがたまらない。B-1グランプリ公認の「なみえ焼きそば」。

From Editors

宮城県南三陸町の佐藤仁町長の名刺には、一枚一枚に手書きのメッセージが添えられています。裏面にインクがにじむほど力強く書かれた言葉は「ご支援に心から感謝!!」。市民を不安にさせないよう、常に前を向いてこられた佐藤町長の気概を感じました。復興地では今、新しい道路や土地が次々に出来上がっています。でも整備敷地はあまりに広大です。本号の大船渡市の写真(p7-8)をご覧ください。上空から見ると、こんな風にまちが出来上がっていくのだとわかります。

今回で私の編集後記は最後となりますが、変貌していく復興地をこれからも見続けていきます。(UR都市機構・広報担当M)

次号のお知らせ

「UR PRESS」46号は7月末発行予定です。

「UR PRESS」オンライン版もお楽しみください!

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。巻頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひご覧ください。

UR PRESS で検索

<http://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/>



URのツイッター

UR都市機構のツイッターでは、イベント、キャンペーン、募集情報などをタイムリーに発信しています。こちらもぜひアクセスして、最新の情報をゲットしてください。

https://twitter.com/UR_TOSHIKIKOU/



プレゼント付きクロスワードパズル

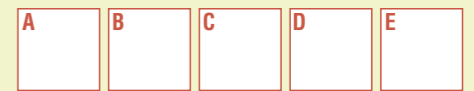
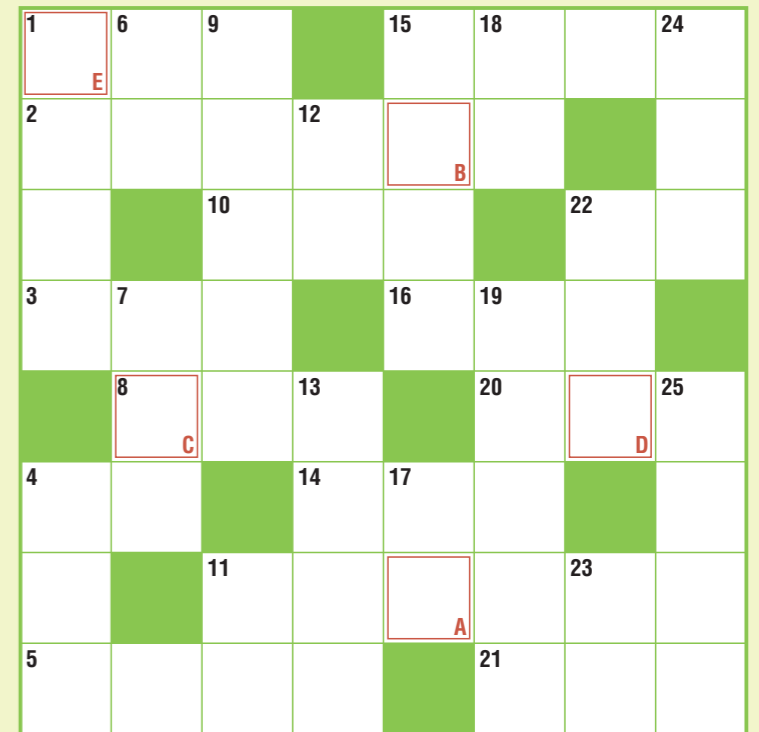
パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- 1 —ホン—スライディング
- 2 昔のは「懐メロ」と呼ばれます
- 3 「—にちょうちん」は不必要なもののため
- 4 —を詰めすぎると体に毒ですよ
- 5 豊富な経験や熟練の技を持っている人
- 8 ほったらかし
- 10 はぶくこと。以下—
- 11 買い物に持参する人もいます。買ったものがたくさん入りそう
- 14 精髓がつまっています
- 15 北海道生まれのウマとか人とか
- 16 北海道と本州の間にある—海峡
- 20 ジョッキーが避けたいことの1つ
- 21 プレゼントの飾りに使われます
- 22 通り— 分かれ— —案内

タテのカギ

- 1 道理に合わない主張をする人がこねているもの
- 4 兵庫県の県庁所在地
- 6 日本の初夏に訪れる雨期
- 7 —給— —の人情
- 9 一緒に仕事している仲間
- 11 十二支の3番目
- 12 普通のおうちよりは簡素で狭い
- 13 自転車のペダルの動きをタイヤへ伝えるもの
- 15 古代の人が住居にしていたものもある穴
- 17 エクアドルの首都
- 18 お茶とお菓子
- 19 隠し事のない「—の政治」
- 22 —ティー— —ケーキ 粉—
- 23 指圧で押しってもらうポイント
- 24 土佐とも呼ばれる四国の県
- 25 —の成績で卒業した優等生



プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

PRESENT ①

山田の醤油 10名様

本誌12ページで紹介している岩手県山田町のスーパー「びはん」のオリジナル醤油。ほんのり甘みがあり、刺身や魚料理はもちろん、卵かけごはんや肉じゃがにもぴったり! 110ml入りで20本セットで。



PRESENT ②

「ご当地ふきんと、たこ焼きだるまみくじ」セットで3名様

大阪らしい柄をモチーフにしたふきんは、吸水性がよく台ふきんやお手ふきに。陶器でできたたこ焼き形だるまは、おみくじ入り。おみくじを引いたあとは楊枝さしに。どちらも「中川政七商店」のブランド「日本市」の人気商品。



●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

●応募締め切り

2016年9月30日(当日消印有効)

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

PRESENT ③

『都市を再生させる』時代の要請に応えるUR都市機構の実行力! 10名様

団地やニュータウンから、大手町や渋谷などの都市再生、また東日本大震災の復興支援事業まで、多岐にわたるURの事業を豊富な図版とインタビューで紹介した176ページの大作。



PRESENT ④

『AKB48、被災地へ行く』5名様

本誌32ページで紹介している、AKB48の復興支援活動を多角的に紹介した1冊。



44号の解答

ハ ナ ガ サ ク

